



経験豊富な指導者に直接指導を受けながら練習に励む本校の生徒（右）

本県では、障害者がスポーツを楽しむ環境の充実と、競技スポーツとしての競技力の向上を図ることを目的として、平成26年7月に香川県障害者スポーツ協会が設立されました。同協会の働き掛けによって、これまで個々に行っていた障害者スポーツが新しく団体を立ち上げ、協会の加盟団体となり、特別支援学校の生徒たちのスポーツ活動の場も増えてきています。

また、県内の特別支援学校の生徒が協会の強化指定選手に選ばれることもあり、パラリンピックなどの国際大会に向けて本格的に競技に取り組める環境も整いつつあります。

香川県立盲学校でも、陸上競技

障害者スポーツ協会設立で活動の場広がる

において卒業生2人を含む3人が強化指定選手に選ばれています。高等部2年に在学している生徒は、協会の紹介により、高校での指導経験が豊富な香川マスターズ陸上競技連盟副会長の村上充氏に指導を受けることができるようになりました。実際の指導は、視覚障害についての専門性のある教員と村上氏がディスカッションをしながら進めており、選手だけではなく、指導者同士のスキルアップにもつながるような機会となっています。

協会の選手育成の積極的な取り組みにより、県内の特別支援学校の生徒が全国高等学校体育連盟や陸上競技協会主催の大会にも出場するようになりました。選手自身が障害者理解を啓発する役割も担っています。

このような流れの中、7月に四国で初めて中国・四国パラ陸上競技大会が高松市で開催されました。平成30年には日本パラ陸上競技選手権大会も高松市で開催される予定であり、さらなる活性化が期待できます。

（宮本格孝・香川県立盲学校保健体育科教諭）